

【2015年3月 相談レポート】～3月は「ひきこもりの高齢化」について～

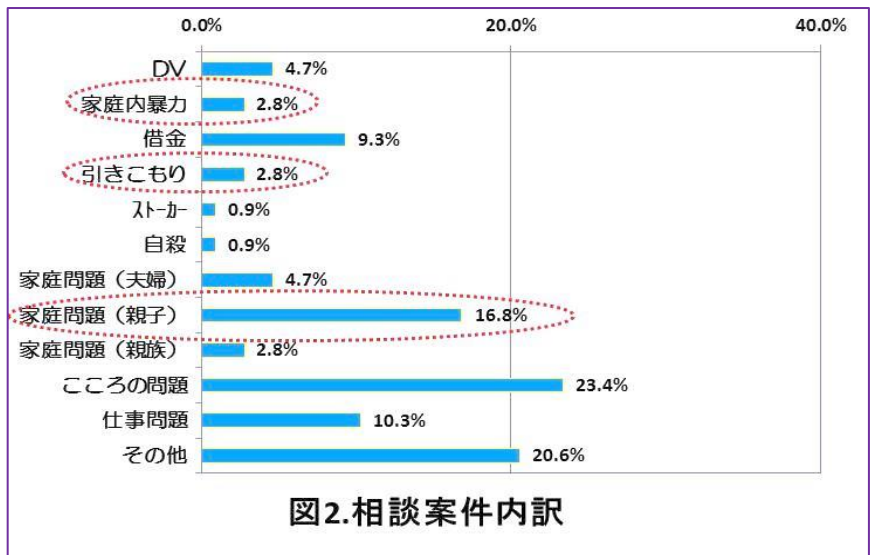


図1のグラフをご覧くださいと、今月は70代の方からのご相談が5%となっています。最近、日本駆け込み寺では特に60代～70代の親御さんから、「子どもの長引くひきこもり・家庭内暴力」についてのご相談が増えています。

「ひきこもり」が社会問題となって久しいところですが、最近では「ひきこもりの高齢化」が目立つようになりました。そんな中、「子どもに財産を狙われ、いよいよ年金も食い潰されてしまう」、「身体もあちこち悪くなり、自分のことで精一杯。子どもの面倒ばかりみてはられない」、などといったご相談が増加傾向にあります。ひきこもりの長期化・高齢化に共通するのは、子どもが親の過去の過ちやしつけの仕方など、過去に起きたことを責め、親の中にある“申し訳なさ”や“罪悪感”を煽ることで延々とお金を無心し続ける…ということが挙げられます。それはやがて、「子どもにお金を無心され、渡さなければ暴れる(物を投げつける・暴言含む)」＝「家庭内暴力(高齢者虐待)」ということに発展していきます。

ひきこもりに至る原因は様々ですが、一部には成人前期にかけての精神疾患の発症や、それらに対する適切な対処が遅れるうちに、親も子ども周囲から孤立してしまうケースがあります。あるいは、「初めて就職した職場で人間関係にうまくいかなかった」、「学生時代の失恋で自信を失くした」、「仕事の適正、能力についてのコンプレックス」…などで自分を追い詰めてしまい、「アルバイトをしてもパッとせず、短期間ですぐに辞めてしまう」ということも多いようです。これらに加え、“家族関係における長年の葛藤”がないとは言い切れない現状も多く見られます。

ひきこもりの長期化・高齢化で深刻なのは、当事者がますます自信を失い社会と関わることを諦め、インターネットやゲームなどのバーチャルな世界だけにとどまり、生きている現実感が持てない…という心の闇が生む様々な問題です。近頃では、ひきこもりが10年～30年に及ぶなど、非常に長期化していることが見受けられます。次回は、続編について書きたいと思います。

～悩みごとや困りごとがありましたら公益社団法人日本駆け込み寺へ～

ご相談は、以下の電話番号からどうぞ

◆新宿歌舞伎町駆け込み寺:03-5291-5720 ◆仙台国分町駆け込み寺:022-395-7740